2025年3月15日

紙相撲新聞

第164回本場所
八～九日目号

編集・発行
日本紙相撲協会

西神門 綱獲りへ 視界良好

春ノ翔、若ノ嶋を速攻相撲で粉砕
相星で並ぶ越境山にも優勝の可能性が

【第百六十四回本場所八日～九日目】

東京の予想桜開花日の一週間前となる3月15日に八日目と九日目が開催され、大関西神門と前頭十四枚目越境山の2人が8勝1敗で優勝争いの先頭に立った。

2敗力士がいなくなったことにより優勝争いはほぼ西神門と越境山に絞られた形だ。

大関西神門は二日目の若佑戦以外は危なげない相撲で白星を積み重ねている。今場所優勝すれば2場所連続優勝となり「4横綱いるが、優勝すれば横綱に昇進させる！」と断言する朝日松理事長。

八日目の相手は横綱春ノ翔。先場所は春ノ翔が押し倒しで西神門に勝っている。「春ノ翔も休場が続いたけど、さすがに横綱という底力があるからね」との友砂親方のコメントがあったが、勝負は西神門がのど輪から左を差す相撲で春ノ翔を圧倒して1敗を守った。

続く九日目は横綱若ノ嶋戦。若ノ嶋は八日目に初顔の西勢之里に勝って6勝2敗と勝ち越し、気持ちを楽にして臨む。さらにこの一番に勝てば、優勝の可能性も出てくる。

↑九日目、1敗の大関西神門は2敗の横綱若ノ嶋と対戦。過去3戦3勝と負け知らずの自信からか立ち合いから横綱を圧倒して1敗を堅守、綱を大きく手繰り寄せた。

↓八日目、横綱春ノ翔と対戦した西神門は、勢いそのまま、危なげなく左差しから寄り切った。

しかし、過去の対戦成績は西神門の3勝と本場所でまだ勝てていない。しかも、稽古場でもほとんど勝てずにいる合い口が最高に悪い相手。

「西神門の右のど輪が先に入るし、差し身でも差されてしまうし、勝つイメージがまったく描けない相手なんだよなぁ」と師匠の錦風親方。横綱として苦手を作ってはいけないが、この一番は想定外の展開を祈るしかない。

勝負は錦風親方の意に適うことなく想定通り、西神門ののど輪であっけなく押し倒された。これで西神門は1敗を守り、若ノ嶋は優勝争いから大きく後退した。

七日目まで全勝と勝間田親方も驚く活躍の前頭十四枚目の越境山。八日目の相手は三役初挑戦となる関脇鬼ヶ嶽。鬼ヶ嶽もここまで1敗で、優勝争いの直接対決の割りが組まれた。

鬼ヶ嶽は今場所の成績次第では大関返り咲きの可能性もあり、残り四日間が非常に大事。注目の一番は越境山が左を差す展開となり、粘る鬼ヶ嶽を寄り切って8戦全勝と星を伸ばし、鬼ヶ嶽は2敗に後退。

鬼ヶ嶽●（寄り切り）○越境山

一敗　西神門、越境山
三敗　若ノ嶋、鬼ヶ嶽、綱乃花
英　筏、月　山、西勢里
勝ノ川、鹿富士、佐賀海
鹿麒麟

九日目は連日の三役との対戦となる小結綱乃花戦。「まあ、綱乃花が左を差して勝つと思うけどね！」と自信を覗かせる友砂親方。

勝負はその言葉通り、綱乃花が左を差して寄り切る相撲で三役の力を示した。全勝を走ってきた越境山にもとうとう今場所初めての土がついた。

関脇鬼ヶ嶽は八日目に越境山に負けると九日目に勝ノ川にも敗れて3連敗となり、大関返り咲きに赤信号が灯った。

七日目を終えて、ともに4勝3敗の横綱の春ノ翔と大神楽は、八日目に春ノ翔が西神門に敗れ、大神楽は勝ノ川に勝ち、九日目に22度目となる両雄の対戦となった。大神楽は勝てば勝ち越しとなる一番だったが、左を差して寄り切る前に腹がつき、引き落としで惜しくも春ノ翔に敗れた。

これでともに5勝4敗となり勝ち越しまであと一番だが、果たして勝ち越せるかどうか、桐壺、磯ノ海両親方の眠れぬ夜が続きそうだ。

今場所の優勝争いは星の上ではまだ3敗勢にもチャンスがあるとはいうものの、大関西神門と平幕越境山の2人の優勝の可能性が高いと言っていいだろう。実力的には西神門が圧倒的に優位に立つが、残り2日の対戦相手がどうなるのかが鍵となりそうだ。

西神門が横綱春ノ翔と若ノ嶋との対戦で見せた強さを見ると、西神門がこのまま10勝1敗で優勝し、連続優勝で横綱昇進という雰囲気が漂いはじめているが、勝負は下駄を履くまで分からない。

鬼ヶ嶽●（寄り切り）○勝ノ川

越境山●（寄り切り）○綱乃花